

成意見の減少傾向や、ア・イの比率の差が小さいという点で、㊦以外の形態とは、逆の傾向を示している。

- ④ A群とB群で意見が反対であるもの
  - ㊦……A群では、アが最高比率であったものが、B群では、イがアあるいは、ア・ウの和を上まわった。
  - ㊧……小規模校のBイがBアより高く、中規模校、大規模校とは反対である。
- ⑤ 学校規模によって、傾向の異なるもの
  - ㊨……小規模校のBイが15.7%、中規模校のBウが11.4%をしめし、学校規模が小さくなるにつれ、不賛成比率が高まっていく傾向をもっている。
- ⑥ B郡ア・イ・ウの比率が接近し、差が小さくなったもの
  - ㊩・㊪……Bアが減少し、Bイがましたためア・イ・ウの比率の差が小さくなり、顕著なものが見られない。
- ⑦ A群・B群の傾向が、ほぼ同じもの

㊫……他の形態に比して、A群、B群の変化が小さく、またBアが他形態より高比率である。現状では、最も有望な担当形態と考えられていることになろう。

以上の傾向は、担当形態そのものに起因する問題や学校規模の差とか、学級担任外教員数による問題、さらには、学習集団の編成態様や規模による問題などが、要因のように思われる。

### (3) 実施上の問題点

容易に実施にふみきれない理由として、教員構成や施設設備以外の事項について、回答をもとめた結果が、第29表である。

学校規模の大小に関係なく、ア・イ・キなどが共通的な問題点である。また規模別では、大・中規模校のウ、当然のことであるが、小規模校のカなどがあげられる。

実施上の未解決点とは何か、必要とする研究と準備の内容、カリキュラムの整備、教員の認識などの具体内容をとらえる必要が感じられる。

第 29 表

理 由	規 模	～ 6	7～17	8 ～	全 体
ア. 実施上の未解決点が多い。		12.1	14.6	17.7	13.7
イ. 実施を前提とした研究と準備がすすんでいない。		20.4	20.9	19.1	20.5
ウ. 教員の認識が不足で、もりあがりが見られない。		7.1	11.4	11.4	9.1
エ. 父兄の認識がない。		1.1	1.9	2.5	1.5
オ. 実際の効果が疑問である。		5.0	5.1	6.3	5.2
カ. 小規模校として、疑点のこる。		22.5	13.3	1.3	16.4
キ. 教授組織に対応したカリキュラムの整備がすすんでいない。		18.2	17.6	19.0	18.2
ク. ほかに優先すべき問題がある。		5.4	3.8	6.3	5.0
ケ. 実施にともなってでてくると予想される問題の解決が大変である。		5.7	8.9	11.4	7.5
コ. そ の 他		1.4	0.6	2.5	1.4
回 答 な し		1.1	1.9	2.5	1.5